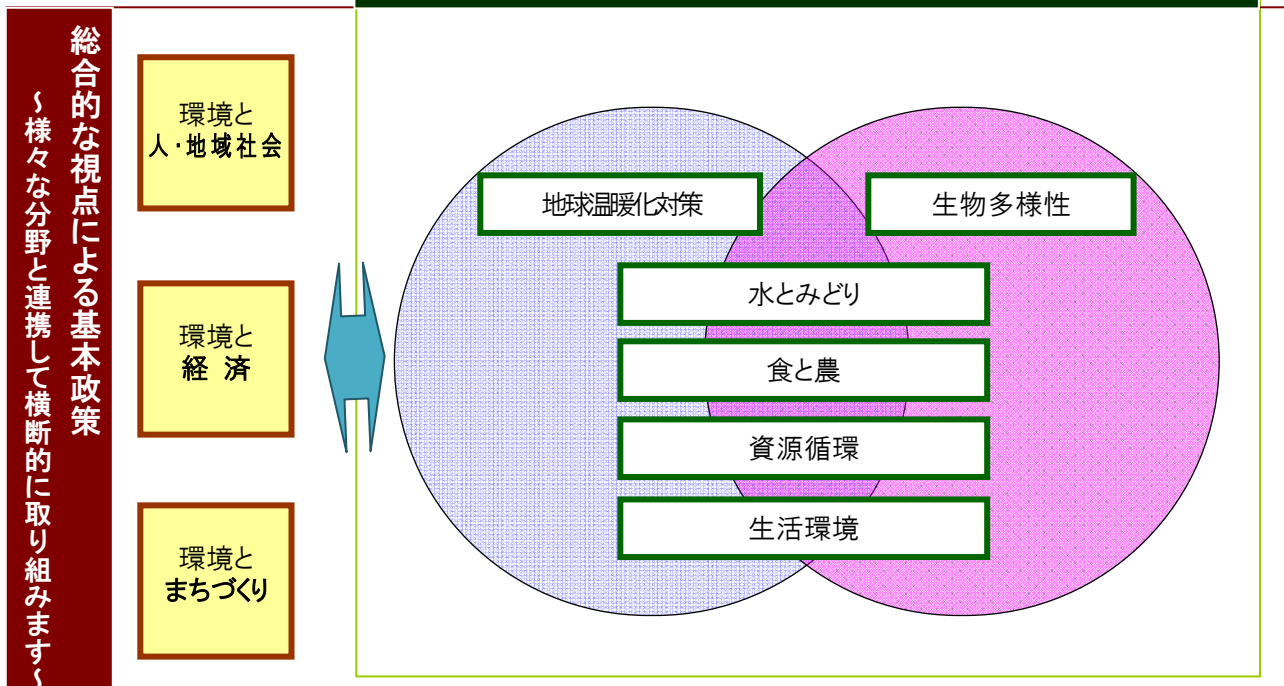


「横浜市環境管理計画」(平成 26 年度)の振り返り【速報版】

「横浜市環境管理計画」は、おおむね平成 37 年度を見据えて思い描く将来の環境の姿を目指しており、事業の実施に関する視点での取組目標期間を、平成 26 年度から 29 年度としています。

計画は、下図に示す通り「総合的な視点による 3 つの基本政策」と「環境側面からの 6 つの基本施策」に体系化しています。この体系に沿って、平成 26 年度の主な取組実績の概要をまとめました。

施策体系



環境と経済

環境・エネルギー分野における市内企業の成長支援や、公民連携による国際技術協力を進め、市内企業のビジネスチャンスの拡大を図り、市内経済の活性化につなげる取組を進めています。
平成 26 年度は、市内企業の設備投資への助成や成長発展分野への支援などによる環境分野の需要創出を通じた**ビジネスチャンスの拡大**や環境分野における**市内企業の技術革新推進**、横浜の低炭素技術を生かした**シティプロモーション**、**新興国等での環境対策の支援と環境ビジネスの海外での戦略的展開**に取り組みました。

主な取組実績

- 市内企業のビジネスチャンスの拡大・技術革新推進
 - 省エネ・節電に資する設備投資への助成(40 件)
 - 中小企業支援コーディネート(150 件 マッチング)
 - 成長発展分野育成支援(3 件 目標 15 件/4 年)
- 地域資源を生かしたシティプロモーションの展開
 - 最先端環境技術とアートの創造性を組み合わせた「スマートイルミネーション横浜 2014」開催
 - 動物園によるシティプロモーション
- 新興国等での環境対策の支援と環境ビジネスの海外での戦略的展開
 - 国内外の都市との低炭素連携の推進
 - ・C40(世界大都市気候先導グループ)参加都市中、「国際カーボンニュートラル都市ネットワーク」に横浜が選出
 - ・「バンコク都気候変動マスタープラン策定・実施能力向上プロジェクト」参画、技術移転
 - 公民連携による海外水ビジネスの国際展開
 - ・海外上下水道関係者と会員企業のビジネスマッチングを実施(ベトナム・ハノイ市・フエ市、サウジアラビア等)



スマートイルミネーション横浜 2014

環境と人・地域社会

環境問題を考えるきっかけにつなげるため、イベント開催等により、多くの市民が、横浜の自然とのふれあいを体験する機会を持ち、自然環境と地域文化などのかかわりを大切にする「横浜らしいエコライフスタイル」の定着を後押ししています。
平成 26 年度は、イベント開催などによる**環境行動を実践するきっかけの創出**、幅広い分野の方との連携やあらゆる媒体による**環境に関する情報発信の実施**、環境活動に対する表彰や環境活動団体への支援・交流会による**環境活動のネットワークづくり**の展開、市民団体と連携した**学びの輪づくり**を実施しました。

主な取組実績

- 環境行動を実践するきっかけの創出、環境に関する情報発信(人と環境のきずなづくり・企業の環境行動)
 - イベント開催
 - 「ヨコハマ環境行動フェスタ」「知ろう! 伝えよう! 生きもののつながりキャンペーン」など
 - 情報発信
 - リーフレットやインターネットを活用した情報発信、企業やスポーツチームと連携した啓発
 - 企業の環境行動の表彰制度「環境活動賞」の実施
- 環境活動のネットワークづくり
 - 市民団体、企業、学校間での情報共有・交流
 - 愛護会の支援

	H26	目標(4 年)
公園愛護会団体数	2,432 団体	2,457 団体
ハマロードサポーター団体数	404 団体	495 団体
水辺愛護会活動距離	59,068m	60,198m

学びの輪づくり

- 市民団体等と連携した青少年への自然体験等の機会等を提供
- ヨコハマ・エコ・スクール(YES)の開催

H26	目標
377 回	250 回/年



市民団体と連携した自然社会体験

環境とまちづくり

あらゆるまちづくりの施策に地球温暖化対策や生物多様性の視点を積極的に取り入れていくことや、環境価値と防災機能が両立したまちづくりを進めています。
都心部のエコまちづくり、コンパクトで活力のある郊外部のまちづくり、横浜都心部コミュニティサイクルの本格実施などの**交通ネットワークの整備**、河川の改修や雨水幹線の整備などの**浸水対策**を実施しました。

主な取組実績

- 都心部におけるエコまちづくりの推進
 - 省エネ、低 CO₂ を実現する建築計画、自然換気・自然採光の取り入れ、再生可能エネルギー導入推進
 - 「世界を魅了する最もスマートな環境未来都市」実現を目指したみなとみらい 2050 プロジェクトアクションプラン策定(H27.3)
 - みなとみらい 3 号線の緑化推進
- コンパクトで活力のある郊外部のまちづくり
 - 「持続可能な住宅地モデルプロジェクト」推進
 - 横浜型コンパクトなまちづくり実現のための検討
- 交通ネットワークの整備(人やモノが移動しやすく環境にやさしい交通・物流体系の形成)
 - 横浜都心部コミュニティサイクルの本格実施
 - 横浜環状道路の整備推進
 - バリアフリー化整備延長 3.4km 完成(合計 31.3km)
 - 横浜港の低炭素化
 - ・エネルギーマネジメントの導入・電力多重化検討
 - ・国際交流ゾーンの LED 照明導入による省エネ・節電推進
- 環境に配慮した建築物の普及
 - 環境配慮型建築物の推進
- 浸水対策
 - 河川の整備推進
 - 内水ハザードマップの作成・公表(北部方面)
 - 時間 60mm 降雨に対する雨水幹線整備(26 年度実績 60.8%)【29 年度目標 63.1%】

	H26
長期優良住宅認定申請件数	2,204 件
低炭素建築物認定申請件数	60 件



コミュニティサイクル

環境側面からの基本施策

地球温暖化対策

再生可能エネルギーや未利用エネルギーの活用を推進するとともに、エネルギーを無駄なく効率的に利用するため、エネルギーマネジメントや省エネを推進しています。

エネルギー施策を着実に推進するため、平成27年3月に「横浜市エネルギーアクションプラン」を策定しました。

平成26年度は、太陽光発電などの再生可能エネルギーの普及拡大、地域エネルギーマネジメントシステムの構築などに取り組むほか、超小型モビリティの活用やEVによるワンウェイ型カーシェアリングサービスのサポート等、**低炭素型交通の形成**を推進し、環境に配慮したまちづくりを進めました。

また、普及啓発においても、ヨコハマ・エコ・スクール等により環境活動のネットワークが展開するなど、横浜らしいエコライフスタイル推進のための取組が定着してきています。

主な取組実績

■再生可能エネルギー等の普及拡大・市内経済活性化

(住宅・建築物の温暖化対策の促進)

○住宅用スマートエネルギー設備の普及促進

(公共施設における未利用エネルギー等のさらなる活用検討・導入)

○下水汚泥消化ガス発電(約2千万Nm³利用)

○神奈川水再生センター太陽光発電実績(約40万kWh)

○ごみ焼却工場における熱利用売電(約2億kWh)

○使用済食用油のバイオディーゼル燃料化(約15万ℓ)

○川井浄水場セラロッカ太陽光発電設備稼働(336kWh)

○峰配水池小水力発電設備(37kWh)

○横浜市風力発電所ハマウイング(約200万kWh発電)

■低炭素型交通の形成

○燃料電池自動車FCV1台導入(県内初)

○「チョイモビ ヨコハマ」実証実験推進

○EVによるカーシェアリングサービス「smaco」サポート実施



FCV(燃料電池自動車)

生物多様性

生物多様性に関するプロモーションや生き物調査等を通じて生物多様性への関心を深めるとともに、日常生活の中で横浜の自然や生き物に親しむ「横浜らしいエコライフスタイル」の定着を進めています。

普及啓発では、環境教育出前講座やイベントを実施しました。また、保全や評価などの**しくみづくり**を目指し、産学民官連携による研究会の開催、専門家による調査のほか、小学生による生き物調査などの取組を着実に進めました。

さらに、**国内外の希少野生動物の保全等**に取り組んだほか、**まちづくり**の視点では、「みなとみらい2050プロジェクトアクションプラン」や、「エキサイトよこはま22」の中で、生物多様性に配慮した都市の実現を目指しています。

主な取組実績

■普及啓発としくみづくり

○生物多様性でYES!(環境教育出前講座)開催(40回/8,180人参加)

○「知ろう!伝えよう!生きものつながりキャンペーン」開催

○市民参加の生き物調査(約160校12,000人超の児童が参加)

■保全・再生・創造

○多様な生き物を育む場づくり

・帷子川をモデルとしたアクションプラン(案)策定

○国内外における希少野生動物の保全

・飼育繁殖技術研究(市内産カエル2種、ミソゴイ)

・スバルバルライチョウ繁殖成功

・希少鳥類保全事業(JICA草の根技術協力事業)及び

市民向けシンポジウム開催

■まちづくりと経済活動

○京浜臨海部における人工干潟設置等取組推進

○山下公園前における水質浄化共同研究



ミソゴイ(雌)

水とみどり

『横浜みどりアップ計画(計画期間:平成26-30年度)』に基づき、緑地保全制度による地区指定の拡大、愛護会と連携した維持管理や助成など「**市民とともに次世代につなぐ森を育む**」取組を着実に進めました。また、地域での緑のまちづくりへの支援や公共施設等での緑の創出など、「**市民が実感できる緑をつくる**」取組を進めました。

「**水循環の再生**」の取組として、透水性舗装を実施するとともに、雨水貯留タンク設置の助成を推進しました。生物多様性に配慮した河川環境の再生・保全のため、アユの遡上状況や魚類等の生息状況調査を行うとともに、水辺拠点の整備など、**多自然川づくり**を推進しました。今後も緑施策と水施策の連携により取組を進めていきます。

主な取組実績

<森を育む><緑をつくる>

○森づくりガイドライン等を活用した森の維持管理(樹林地:109か所)

○地域緑のまちづくり(協定締結:6地区)【目標30件】※2014~2018年度まで

<水循環の取組>

○雨水貯留タンクの設置助成(280個)【目標300個/年】

○道路への雨水浸透ますの設置(862個)【目標1,000個】



森づくりガイドライン等を活用した維持管理(青葉区)

食と農

『**横浜都市農業推進プラン**』に基づき、市内産農畜産物の高付加価値化・利活用促進に向けた飲食店等へのニーズ調査、直売所の設備等の支援による地産地消の推進など、**経済活性化**の視点からも取組を展開し、**持続できる都市農業の推進**に向けて取り組みました。また、『横浜みどりアップ計画(計画期間:平成26-30年度)』に基づき、水田の保全や市民農園の開設・整備を進め、「**市民が身近に農を感じる場をつくる**」取組を進めています。今後も引き続き、横浜の農地の利用促進を図るとともに、地産地消や農体験の場の創出などの取組により、市民と農の関わりを深める取組を展開します。

主な取組実績

<持続できる都市農業の推進>

○経営改善支援(12件【目標20件(4か年)】)

○農業生産基盤・設備の整備・改修(15地区【目標72地区(4か年)】)

<市民が身近に農を感じる場をつくる>

○多面的な機能を持つ水田の保全(119.7ha【目標累計123ha】)



直売所支援(神奈川区)

資源循環

『**ヨコハマ3R夢(スリム)プラン**』に基づき、リデュース(発生抑制)を推進するため、イベント等を通じ、マイボトル・マイバック等の利用や食品ロス削減などライフスタイル・ビジネススタイルの転換を呼びかけました。また、生ごみ等のバイオガス化について実現可能性を検討しました。**産業廃棄物**については、市民の関心を高めるため、産廃の減量・リサイクルに向けた取組についてわかりやすくまとめたリーフレットを配布しました。今後も、さらなる3Rを推進します。

主な取組実績

<一般廃棄物に関する取組>

○3R行動の実践に向けた広報・啓発(1,306回【目標5,500回(4か年)】)

○減量化と分別徹底のための事業者立入調査(3,100件【目標8,000件(4か年)】)

<産業廃棄物に関する取組>

○安全で信頼できる環境負荷の少ない廃棄物処理の推進



啓発活動

生活環境

大気汚染防止法等の環境法令や生活環境保全条例に基づき、横浜の大気環境や水環境等の調査・監視を行う一方、工場・事業場等へ届出指導や立入調査、啓発活動を展開することで、生活環境の保全に向けた取組を進めました。大気環境や東京湾の水質改善などは広域的な課題であることから、周辺自治体と連携して取組を進めています。身近な生活環境では、公害等の苦情相談窓口を設置し迅速で適切な対応を行うことで**生活環境の改善**を図っています。

主な取組実績

○微小粒子状物質(PM2.5)の監視体制の整備(18局)及び速報値の公表

○工場・事業場等への届出指導及び立入調査の実施

○公害苦情相談への迅速な対応、未然防止の啓発

○ヒートアイランド現象緩和策としてのすず風舗装による道路整備



遮熱性すず風舗装